

The Women's Studies Association of Japan

学会ニュース

日本女性学会
第127号 2013年3月

発行 日本女性学会
事務局 〒272-0023
千葉県市川市南八幡1-16-24
TEL 047-370-6068
FAX 047-370-5051
ホームページ
<http://www.joseigakkai-jp.org/index.htm>
頒価 一部300円

目次

次回大会予告……………	1	会員の著作……………	4
個人研究発表・ワークショップ募集について…	1	研究会のご案内……………	4
大会シンポジウム……………	2	会員の著作紹介募集案内……………	4
幹事会議事録……………	3	メールニュースについて……………	4
日本女性学会2013年度「少額研究活動支援」 対象募集のお知らせ……………	3		

次回大会予告

会場：エソール広島 広島市中区富士見町11番6号

広島駅からタクシーで約7分、バス・路面電車等で15分～20分

《バス》「富士見町」「田中町」「宝町北」下車

《広電電車（路面電車）》5番線 比治山線 「比治山下」下車 *少し歩きます。

*宿泊は各自で手配して下さい。

広島市中心部、「平和大通り」、「紙屋町」周辺のホテルが便利です。

詳しいアクセスは <http://www.essor.or.jp/annai/access.html> をご覧ください。

大会シンポジウム：

「女」にとって〈美〉とはなにか——美の秩序？ 資本化？ 規範の変容？

大会日程（予定）：1日目 6月1日（土）13時～16時半（予定）

大会シンポジウム、その後総会、懇親会

2日目 6月2日（日）9時半～15時（予定 昼食休憩を一時間ほど含みます）

個人研究発表、ワークショップ

個人研究発表とワークショップ申し込み受付について

タイトルと発表の概要（200字程度）・発表のカテゴリー（個人研究発表、パネル報告、ワークショップのいずれか）・発表時に使用する機材（希望にそえない場合もあります）を記載して3月31日24時までに、ニュースレター担当の伊田広行・飯田祐子までメールでお知らせください。受信トラブルを避けるため、両名にお送り願います。

ワークショップは、参加者との共同作業でテーマを發展させていく取り組みであり、個人研究発表とは性格の異なるものです。原則として複数の発表者がひとつの分科会全体（2時間程度）を担当していただきます。発表時間は短くしていただき、参加者との共同作業部分を多くすることが条件です。

個人研究発表はひとつの分科会で3、4人の方に発表

をしていただきます。この組み合わせは通常応募状況によって幹事会で決め、司会も幹事会から出しますが、あらかじめ共通テーマの方々3名以上が集まり、共同でパネル発表に応募していただくことも可能です。その場合、公平な各発表時間の配分と質問の時間を十分とることに留意いただき、テーマ、時間配分、司会者などを申込者が決めてからご応募ください。

■大学院生、非常勤講師等への旅費補助について

ワークショップ、個人研究発表をされる方で、学生、院生、OD等、常勤職についておられない方には、学会より旅費の補助を行います（総額10万円を人数と距離に応じて配分しますので、補助金額は未定です）。希望される方は、報告申込の際に、「旅費補助希望」と明記してください。

■大会におけるバリアフリー対応

大会におけるバリアフリー対応（手話通訳、文字通訳、配布物拡大コピー希望など）のご要望をおよせください。3月31日までに、庶務担当田中かず子へお願いいたします。保育のご要望については、次号で詳細をごらんください。

大会シンポジウム

「女」にとって〈美〉とはなにか——美の秩序？ 資本化？ 規範の変容？

シンポジスト：西倉実季さん、合場敬子さん、金子由美子さん、水無田気流さん

コーディネーター：千田有紀・荒木菜穂

趣旨説明

女にとって美とは何だろうか。美の規範について語ることは、一般社会においてはある種の「タブー」でもある。しかし女性学の分野では、女性と美についての長い議論の歴史が存在してきた。たとえば、駒尺喜美編の『女を装う』では、女がまさに「女」を装わされていること、そして副題の「美のくさり」にみられるように、その美の規範が女自身を縛り付けていることが実体験と照らしあわせながら論じられている。美の規範から逃れることはとても難しい。田中美津が「化粧が媚なら素顔も媚」といったように、装わないこと自体が若さや美しさの誇示にすらなりえるからだ。女の身体は、つねに美の視点から評価される対象物となってきた長い歴史をもっている。

現代社会において美というものは、私たちをますます縛り付けるものとなりつつある。おそらく女のみならず、男をも縛りつけているという方向で、美の規範はますます範囲を広げ、強さを増している。さらにいえば、グローバル化のなか格差が拡大していくなかで、「能

力」というものの自体の概念が変容している。そのような社会状況において、美そのものが「資本」として機能し、格差の拡大に寄与している側面があるのではないか。その一方で、身体に対する感覚も変容してきている。アイデンティティの一貫性に疑問をもつひとのなかには、まさに身体が「借り物」であるという感覚が出現している。コスプレや身体加工も盛んである。そしてもちろん、お洒落はわたしたちの生活を潤す、楽しみでもあることを忘れてはならない。さらにわたしたちが能動的に身を飾ることによって、押しつけられた美の規範を揺るがすことも可能である。しかしその揺らぎもまた、さらなる美の秩序によって、さらにまた揺るがされることもあるだろう。これらをひっくるめて、私達の身体はいわばひとつの戦場と化しているといってもよいかもしれない。

今回のシンポジウムはこのような問題意識から、女と美について率直に、多角的に検討することにした。シンポジウムを受けてのワークショップも開催する。ぜひとも活発な意見交換を求めたい。

日本女性学会 2013 年度 「少額研究活動支援」対象者募集のお知らせ

日本女性学会では、常勤ないし正規雇用契約をもたず、研究財源の確保に困難をかかえている会員の研究活動を支援することを目的に、「少額研究活動支援」を創設しました（2011 年度総会承認）。要件に該当する会員を対象に、研究活動支援金を支給します。下記の通り、2012 年度の支給対象者を募集します。ささやかな活動ですが、ぜひ活用ください。

記

内 容 対象者の日本女性学会の趣旨に沿った活動に対し、1 人あたり 3 万円の研究活動支援金を支給する

対 象 2013 年度 4 月 1 日以降に常勤ないし正規雇用契約をもたない会員 10 名

応募要件

- ・前年度までの会費が納入されていること
- ・日本女性学会会員の会費区分 6000 円の者
- ・常勤ないし正規雇用契約下でないこと
- ・日本学術振興会特別研究員でないこと

応募方法 日本女性学会ウェブサイト to 備える応募用紙により日本女性学会事務局宛郵送

応募締切 2013 年 4 月 30 日（火）着分まで

詳細および様式 日本女性学会ウェブサイト <http://www.joseigakkai-jp.org/>

会員の著作

- ・ モー・イー・リー / ジョン・シーボルド / エイドリアナ・ウーケン著、玉真慎子・住谷祐子訳 『DV 加害者が変わる』金剛出版、2012 年
- ・ 油井大三郎編 『越境する 1960 年代——米国・日本・西欧の国際比較』彩流社、2012 年（栗原涼子「ニューヨークの女性解放運動とラディカル・フェミニズムの理論形成」）
- ・ 海老原暁子著 『なぜ男は笙野頼子を畏れるのか』春風社、2012 年
- ・ ベル・フックス著、杉山直子訳 『アート・オン・マイ・マインド』三元社、2012 年
- ・ 山口智美・斉藤正美・荻上チキ著 『社会運動の戸惑い——フェミニズムの「失われた時代」と草の根保守運動』勁草書房、2012 年
- ・ 速水ユウ（速水裕子）『派遣 OL にパワーをもたらす 30 の鉄則』幻冬舎ルネッサンス、2012 年

研究会のご案内

2013 年大会シンポジウム プレ研究会

大会シンポジウムのパネリストにおいでいただき、シンポジウムに向けた準備の研究会を開催します。どなたでも参加できます。資料等準備の都合上、参加希望者はなるべく事前に研究会担当幹事までご連絡ください。

日時：2013 年 3 月 18 日（月） 10 時～ 12 時

場所：大正大学 3 号館 2 階 327

所在地：東京都豊島区西巣鴨 3-20-1

- ・ 都営地下鉄三田線 西巣鴨駅下車 徒歩 2 分
 - ・ 埼京線 板橋駅東口下車 徒歩 10 分
 - ・ 都電荒川線 新庚申塚駅又は庚申塚駅下車 徒歩 7 分
- 詳しいアクセスは、http://www.tais.ac.jp/other/access_map/access_map.html をご覧ください。

研究会担当：田間泰子

メールニュースについて

▶メールニュースのひな型が変わりました

学会員のみなさまにお届けしているメールニュースに、以下の情報を明記することになりました。

- (1)「幹事会からのお知らせ」または「会員からの情報」
- (2)「会員からの情報」の場合は、配信を希望している会員の氏名

メールニュースでは、会員から依頼された情報をそのまま配信します。本学会が各情報を吟味して推薦するものではありません。情報の活用に関しては、各会員の責任でご判断ください。

メールニュースは学会員のみなさまに有用な情報を不定期にお届けしています。メールニュースを利用できるのは、発信・受信とも本学会の会員のみです。是非ご登録ください。

配信ご希望の方は、情報を以下の送り先までお申し込みください。原稿は他のメールから引用の形で転送するのではなく、直接お書きください。配信依頼が立て込むと配信が数日おくれることもあります。ご了承ください。

送信ができずメールが戻ってくる方にはご連絡を差し上げております。ご連絡から 1 年間お返事の無い方は配信停止とさせていただきます場合があります。また、アドレスを変更された方は速やかにお届け願います。お申し込みをされているのに届いていない方がおられましたら、ご連絡をお願いいたします。

メールニュース担当／中村桃子

※ 2012 年 7 月 1 日より担当と情報の送り先が上記に変更となりました。